

大野市小中学校再編計画（案）に係るパブリックコメントの結果（案）

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 大野市小中学校再編計画（案）について
- (2) 募集期間 令和3年11月1日（月）から11月15日（月）までの15日間
- (3) 意見提出状況 提出意見：13件 提出方法：書面6件、電子メール7件
提出者：7人（書面5人、電子メール2人）

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

該当箇所	番号	意見の概要	市の考え方	修正
p10、11	1	<p>和泉小中学校は、第二次再編まで現行の和泉小中学校での存続を希望します。</p> <p>理由</p> <p>①学校は和泉地区のコミュニティ施設として位置付けられている</p> <p>②大野市内までの通学距離は、児童、生徒への体力、精神的な負担が重い</p> <p>③コロナ感染が終息していない中での再編に無理があり、福井県教育委員会のICT、オンライン授業の活用したいほうがいいと思う</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>平成30年度に計画の見直しを決定して以来、保護者、市民の皆さんの意見をお聞きするとともに、大野市小中学校再編計画検討委員会で議論を重ねていただき、教育委員会として大野市小中学校再編計画（案）を作成しました。</p> <p>一定規模の学習集団を形成し、主体的、対話的で深い学びを行い、これからの時代を生き抜くために必要な能力を備えた大野人を育てたいと考えています。オンライン授業等は大変有効な方策ですが、あくまでも補助的なものと考えています。</p> <p>ご意見を十分勘案しながら進めます。これからも、地域子どもたちを地域の温かい見守りの中で育てていただきますようお願いいたします。</p>	なし
p1	2	<p>子供（児童・生徒）が減るなか、子供の事、市の運営の両立を考えると、時代的にやむを得ない事と思うが、2段階で行うと、コストが大幅に膨らみ、子供・保護者と行政等々、様々な人・機関の影響を考え将来を見据えながら当初の「小・中」学校の数</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>一定規模の学習集団を形成し、主体的、対話的で深い学びを行い、これからの時代を生き抜くために必要な能力を備えた大野人を育てたいと考えています。</p>	なし

		にすべきと強く思う。	<p>このため、様々な影響を最小限に抑えつつ再編を進めるため、学校数を中学校は令和6年度に2校、小学校は令和8年度に7校とし、再編に際しては校舎を新築せずに既存校舎を活用することとしたものです。</p> <p>また、昨年度は1年という短期間に児童生徒全員にタブレットが配備されました。このように予想もしなかった例を見ても分かるように、今後10年20年後の社会の姿はまさに予測不可能です。喫緊の課題は何か、中長期的な課題は何かを整理し、日々の社会状況を分析しながら適確に進めることが極めて重要なことから、段階的に慎重に検討することとしています。ご意見にあるように、将来を見据えながらしっかり対応していきます。</p>	
指定なし	3	<p>小学生は幼い1年生から6年生まであり、遠方から朝早く集団登校してきます。(大人は車でスーと来るからいいですね。)スクールバスの充実、無料での送迎は当然だと思います。それでも、遠方の子供達は時間が早くなり不利です。</p> <p>中学生にしても、和泉村など遠方から来る子供は、心身共負担があり危険も伴います。再編するメリットよりデメリットの方が大きいと思いますが。もう新聞では決定のように記載されていますが、課題はたくさんあると思います。納得のいく検討をしてほしいと思います。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>大野市小中学校再編計画は、今はまだ案の段階です。これから、教育委員会で協議して決定することとしています。</p> <p>また、学校を再編するにあたっては、保護者や地域の理解と協力が必要です。地区ごとに学校再編に向けた取組みを検討するための準備委員会を設置し、スクールバスの運行や、地域活動への参加などの再編に伴う諸課題について、保護者や地区の方々や学校、行政の間で再編に向けた協議や調整を行うこととしています。</p> <p>さらに、再編を進めていく中で出てくる課題についても、この準備委員会で十分に協議した上で解決していきたいと考えています。ご意見にある不安を少しでも払拭できるよう最善を尽くします。</p>	なし
指定なし	4	小学校の複式学級について、県内でも保有率が高	ご意見として承ります。	なし

		<p>いとの記述があります。</p> <p>なぜそれを解消させなければならないか？</p> <p>各教室に大画面ディスプレイ、ICTの拡充によって他校と繋がる大人数学習が可能なのではないのでしょうか。</p> <p>皆が納得できる複式学級を解消しなければならない根拠を示して頂きたい。</p>	<p>複式学級では、異なる学年の児童が異なる内容を同じ空間で同時に学習しています。教員は置かれた状況で最善を尽くしていますが、児童に十分に指導が行き届かないことに大きなジレンマを抱えています。</p> <p>体育や音楽をはじめ、大人数ではできる学習が複式学級ではできずにいます。また、全ての教科で実際に顔を合わせて話し合うことで、深い学びと協働的な学びを進めていくことが、今の教育には求められています。</p> <p>複式学級だけでなく、単式学級、複数学級にそれぞれにメリットとデメリットの両方がありますが、子どもたちが公平な教育を受けることができる権利を保障することが必要だと考えています。</p> <p>このため、一定規模の学習集団を形成し、主体的、対話的で深い学びを行うことにより、これからの時代を生き抜くための必要な能力を身に付けるために、学校を再編したいと考えています。</p> <p>なお、意見交換会や説明会等を通して、少人数学級や複式学級を可能な限り早く解消してほしいと切望する方々が多くいらっしゃることも肌で強く実感しています。</p>	
p13	5	<p>学校設備等の整備について</p> <p>再編が現実となった時には、既述の通り、学校施設の整備を推進して頂きたいと考えます。</p> <p>昨今の気象状況から体育館にも空調機が必要との認識も持って検討戴きたい。</p> <p>校内の経年的な汚れについても改修し、再編によって、生徒、児童、保護者、教職員が新しい学校との認識ができるようにリフレッシュが必要と考えます。</p>	<p>再編を進める上でのご提案として承ります。</p> <p>再編計画（案）では、既存校舎を活用して再編を行うこととしていることから、規模の大小は学校によって違いはありますが、これからの教育を進めるために最適な教育環境を整備することとしています。</p> <p>このため、各学校の教職員や児童生徒の意見も参考にして、改修を行っていきたいと考えています。</p>	なし

			<p>また、経年的な汚れについてもクリーニングすることも併せて行い、未来志向で学校施設全体を学びの場として創造していきます。</p>	
p13	6	<p>保護者の負担軽減について</p> <p>説明会では、再編時の学年に応じて、補助率が変わるとの内容がありました。多感な時期であり、当然みんなと同じ体操服、ズック、制服を望む児童・生徒がおられると思います。意欲喪失、不登校、仲間外れ、いじめ等を恐れ保護者は当然それに応えようと大きな負担を承知で購入されると思います。また、成長期であり、再編前年にやむを得ず新調されることもあると思います。</p> <p>そのような事を配慮いただき、希望家庭には100%の補助を戴きたい。</p>	<p>再編を進める上でのご提案として承ります。</p> <p>学校を再編するにあたっては、保護者や地域の理解と協力が必要です。地区ごとに学校再編に向けた取組みを検討するための準備委員会を設置し、スクールバスの運行や、地域活動への参加などの再編に伴う諸課題について、保護者や地区の方々と学校、行政の間で再編に向けた協議や調整を行うこととしています。</p> <p>ご提案のいただいた意見についても、この準備委員会で丁寧に協議していきます。</p>	なし
p38	7	<p>説明会でも質問しました内容になります。</p> <p>12学級を維持できるのが、R10年までと推測されています。R11以降は中学校専門教科免許所有教員の配置要件を満たさなくなります。次期再編まで配置の維持を維持する様にして頂く必要があります。その為の今回の再編と認識しています。</p>	<p>再編を進める上でのご不安として承ります。</p> <p>現在の出生数からの推計では、令和11(2029)年度から開成中学校の生徒数の減少により学級数が少なくなると予測しています。</p> <p>一方で、国では小規模学級の検討を進めており、これからの教育制度改革の動向によって、学級数が左右されます。</p> <p>このため、将来の児童生徒数の減少や教育制度の改正状況を見据えながら、適正な学校規模や教育環境の整備などの検討を継続していくこととしています。</p> <p>その時の情勢に合わせて、柔軟に対応することで最適な教育環境を維持していきたいと考えています。</p>	なし
p13 17~24 行目	8	<p>中部縦貫自動車道完成後の2022、2023年度の準備期間にスクールバスでの通学路が決められていくとのことですが、和泉一大野間は冬季が特に不安。</p>	<p>再編を進める上でのご不安として承ります。</p> <p>学校を再編するにあたっては、保護者や地域の理解と協力が必要です。地区ごとに学校再編に向けた取組みを検討するための準備委員会を設置</p>	なし

		もし、通学路を決めて行く中で少し無理ではないかとなったときはどうなりますか？	し、スクールバスの運行や、地域活動への参加などの再編に伴う諸課題について、保護者や地区の方々と学校、行政の間で再編に向けた協議や調整を行うこととしています。 ご提案のいただいた意見についても、準備委員会で丁寧に検討していきます。	
p13 17～24 行目	9	子供の毎日の負担もありますが、親の負担も大きくなります。 合併後、小学校と中学校と子供が通っている場合、保護者会、運動会など行事が大野と和泉で別々になります。その場合の配慮はどうなりますか？	再編を進める上での不安として承ります。 保護者会や運動会などの行事については、日程ができる限り重複しないよう、中学校区内の学校間で調整することとなります。 なお、中学校が2校になることで自宅などからの距離が遠くなる場合もありますが、ご協力をお願いします。ご心配の件については、より丁寧に対応します。	なし
p14 23～28 行目	10	説明会のときに冬季がどうしても通えないときリモートでの授業も可能と話されておりましたが、リモート授業ができるなら、通学時間を増やして子供の負担がかかるより、現在の形でリモート授業はできないのですか？	再編を進める上でのご提案として承ります。 学校を再編するにあたっては、保護者や地域の理解と協力が必要です。地区ごとに学校再編に向けた取組みを検討するための準備委員会を設置し、スクールバスの運行や、地域活動への参加などの再編に伴う諸課題について、保護者や地区の方々と学校、行政の間で再編に向けた協議や調整を行うこととしています。 一定規模の学習集団を形成し、主体的、対話的で深い学びを行い、これからの時代を生き抜くために必要な能力を備えた大野人を育てたいと考えています。オンライン授業等は大変有効な方策ですが、あくまでも補助的なものと考えています。 ただし、緊急の場合や災害時には、いち早くリモート授業に切り替えるなど、柔軟な対応をしっかりと行っていきます。	なし
指定なし	11	大野市は、学校教育に何を目指しているのかわか	再編を進める上でのご提案として承ります。	なし

りません。財政が逼迫している、又、少子化が深刻であるなどの理由で学校再編の方向に市民を導きましたが、世界の流れは小規模教育に傾いています。

大規模校が小規模校より教育効果が優れているかどうかという観点から見ても、機動性、柔軟性、個別的な対応力などにおいては小規模校の方がはるかに優れていると思います。それらを大規模校が補うべく、有意義な点はどこにあるのでしょうか。

児童生徒の数が多くなれば、一人一人に目がいき届かなくなるのは目に見えています。しかし、統廃合は決まってしまったことなので、これからの大野の特色ある教育、どこにもない教育を考えていかなければなりません。

そこで、視点を少し変えていきましょう。

これまで小規模校では、20～30年以上前から地域の方々や、教員免許を持たない専門的な人材の方々に学校に入ってもらい、地域の伝統や様々な分野の経験、高齢者、障害を持った方々との交流などを行い、いろいろなことを学ばせてもらってきました。

それは、学校と外部との垣根を低くし、だれもが学校へ来ても温かく接する事となっています。

大規模校では、先にも書きましたが、機動性、柔軟性が無い（人数が多くてできない）なかなか他者との連携が、協働が難しいのです。ITを活用すればということも言われていますが、直接触れあう事の方が効果的です。それで、学年というグループ単位にするとか、学級単位で目標設定をするなどの活動態性を取る必要があります。

大規模になって教員数も増やされると言う事であれば、専科教員と子ども達を見守る教員の二つに

現在でも、大野で働いている人、外部の専門家、大野市出身のスポーツや芸術に秀でた方々を招き、いろいろなことを教わっています。また、地域の方々から、地域の伝統文化や食など学ぶなど、いろいろな方々との交流を深める取組みを、全ての小中学校で行っています。

また、教員が外部の方々と交流し、いろいろなことを知ることにも寄与しているものと考えています。

このようなことは、ふるさとを学ぶことでふるさとを知り、愛着を持つ心を育てるために必要なことだと捉え、再編を進めても継続していきたいと考えています。

さらに、本学校再編（案）は、第2章で大野市が目指す学校教育を明らかにしています。また、大野市小中学校再編検討委員会報告にある学校の意義等についての専門的で大局的な提言を十分に踏まえて、本計画案を作成しています。

立地する地域の環境や規模の大小など、学校がおかれる状況はそれぞれ違います。それぞれが良い点も少々困る点も両方抱えながら、日々の教育活動が進められています。

大野市が実現しようとしている学校教育の姿は、まさにいただいたご意見と方向性が同じです。現在も積極的に進めているところです。ご意見を参考にさらなる充実を目指します。

		<p>分けることも可能になるのではと考えます。特色ある大野の教育の一つとして考えて見てはどうでしょう。</p> <p>教科専門に教える教員、特別活動、道徳等子どもの特性を見て指導する担任の二つに分け、何を教えるかではなく、何ができるようになるかと言う、これからの子どもに本当に必要な資質能力が育成できる教育ができるかもしれません。</p> <p>又、教員の質を高めるためにも、外部との交流は欠かせません。もっと、地域や専門分野の方々との連携、協働を進め、学校を開放していかなければならないと考えています。</p> <p>教員の研修に、教員を学校以外の社会に出し、学校外の社会体験をさせて、視野を広げさせる、学校内ばかりに閉じこめておかないことが、これからの教育に必要なだと考えます。</p> <p>子ども達がどういう学びをすればよいのか、深く考えてくださいます様、お願いいたします。</p>		
p6 11行目	12	<p>学校教育は、家庭教育を受け止め、あるいは受け入れて社会教育と共生していく上で非常に大切な時期であると思います。またその内容はわずか義務教育9年間で、または、高校、大学、大学院の教育を加えたとしても12～18年間で学びうるには大変困難ではとも思います。特に義務教育は重要だと思います。</p> <p>学校教育は、これからの人生を全うするための人格的な基礎を学ぶ時期であり、この時期に学んだことは、よほどのことがない限り人格の修正として身に付くからだと思います。だから、私はあまりこの時期に一方的に、つまり他方がないような学びを、集中して学びすぎないことも必要かなと思っています。</p>	<p>再編を進める上でのご提案として承ります。</p> <p>児童生徒の教育環境を整えることや、地域と学校が連携して子どもの育ちを支えることなど、第六次大野市総合計画の「こども」分野で施策を掲げ、いろいろな取組みを始めています。</p> <p>幼少期から高等学校までをつなぐ18年教育の推進や、再編計画（案）にある「大野市が目指す学校教育」を進める中で、ご提案を十分参考にさせていただき、優しく、賢く、たくましい大野人を育てていきます。</p>	なし

例え、社会が急激に変化したり、社会の要請があったとしても、学校教育は人間の本質に向かってゆっくり、多様な能力を授かって生まれてきてくれた一人一人の児童生徒さんを、大人たちはお世話をさせてもらうべきだと思います。

教育課程においては、目標に向かって勉強する、または努力するということが大事ですが、本当のところは、勉強すること、努力することを目標とすることがさらに大事だという人生基本の心がけを身につけること、学習内容は、自然界のあらゆるいのち（もちろん人間も含めて）のいとなみを通して、幼い頃から自然に対する畏敬の念こそが大事ではないかと、この頃つくづく思うようになりました。

この事は、最高に難しいことですが、せっかくの自然に恵まれた大野市の学校教育ですから、義務教育時代に生きる道がそんなに明らかにならなくても、また皆さんと上手に交われなくても、学び方(生き方)を学ぶ学校教育(なぜ今学校へ来ているのか、なぜ勉強をしているのかをも含めて)、それこそ21世紀を生きる進取の気象かなとも思います。私たち大人でも、未来のことは今考えられることで判断しているだけで何の保証もないのだから、ましてや児童生徒さんという感じがします。大野市のある中学三年生の生徒さんと勉強していて「先生、何のために学校で勉強するのですか。」とか「学問はちょうちんである。」と江戸時代の細井平洲という人が言っていたよとかいろいろ討論していたら、その生徒さんは最後に、「先生、学問は人間性をトレーニングするんですね！」私は、びっくりしてすぐに自分の手帳にメモしました。

読んで頂き誠にありがとうございました。これまでのたくさんのご苦労様に心から感謝いたします。

		これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。		
p14 34 行目	13	<p>インターネットからの（３）再編基準の検討に、学校規模を適正化して、児童生徒の教育環境の向上を図るため、学校を再編することは有効手段のひとつとありますが、次期再編の検討については、小中学校の校数を減らさない方向で検討していただきたいと考えています。人口減少は社会の流れですが、その原因には若い人たちの働き口と給与、働き方が非常に関係していると思います。大野市の若い人たちが安心して働き、家族を構成できる方法を考えて見たらどうかと考えています。少々の人口減減少は分かっているのですから、はじめから覚悟してある程度の小規模校が大野市のような地域の中で生活できるように本気で具体的な支援を考えると良いと思います。児童生徒さんだけが固まったり、まとめたりするとますます親子、世代、祖先など縦のつながりが危なくなると大野市全体の人たちが、個々の立場で安心して生活できなくなるのでは心配です。適切でなく、適度な規模で学校成立、地域成立のための支援を大野市全体で考えたらよいと思います。義務教育は、あくまでも人格形成の育成ですから、広く、深く、ゆっくりと若い人たちと共に頑張りたい気持ちでいっぱいです。</p>	<p>再編を進める上でのご提案として承ります。 次期再編については、令和８年度に小学校を再編してから概ね５年後に検討を始めることとしています。</p> <p>今の段階では、人口や児童生徒数の推移、国の教育制度の動向、ＩＣＴ環境の技術革新など、近い将来を予測することでさえ、極めて困難な時代を迎えています。</p> <p>このため、少人数の協議体を設置して状況の推移を注視していきたいと考えています。</p>	なし